

生態を知って堅く防ごう

獣害対策

サル編



市内には、約12の群れ（員弁2・北勢4・大安2・藤原4）が確認されています。1つの群れで30～100頭を形成していることもわかっています。

市の対策としてサルに発信機をつけ、行動範囲を調べ、猟友会とも情報を共有し、追い払いをしています。しかし、なかなか減らないサルの被害...

【ニホンザル】ニホンザルは世界のサルの中でも最北限に分布する種として知られています。エサを求めて群れで行動。肉や魚は食べませんが、果樹・野菜・根菜など多種の農作物に加害します。夜間は活動しません。

近年、深刻な状況にある農作物の獣害被害。なかでもサルによる被害は43都府県で報告があり、被害総額は約15億円にのぼります（農水省調べ）。市内でも被害が増加し、農業へのダメージが多く、畑作りの楽しみといった生き甲斐をもなくすという精神的な被害も拡大しています。そこで、今回は私たち自身でできる“サル対策”を紹介します。

何とかしなければならぬのはサルではなく畑です

今までの鳥獣害対策は、何かと“動物駆除”の方に目を向けがちでした。被害に遭った農家から「サルをどうすればいいのかわからない」という叫びに対して、通常の対応策といえば畑を立派な柵で囲ったり、ハンターに駆除してもらったりする方法がありますが、それでもサルが減らない現実があります。

畑とサルを、台所とハエだと思ってみてください。台所に魚の頭が落ちていなければ銀バエは来ないし、古くなった果物がなければショウジョウバエは来ません。どちらも置いていない台所では、ハエが通ることはあるけれども、とどまることはないでしょう。つまりハエがとどまる台所には、ハエが大好きなエサがあるのです。では、そんな台所でハエ対策をしたらどういうことになるのでしょうか。ハエタキが殺虫剤を持って、永遠に闘い続けることになるのです。

つまり、最初に何とかしなければならぬのはサルではなく、サルを寄せつけるエサ場、すなわち畑なのです。

防除施設の補助制度

田畑の農作物を荒らすなど、被害を与えるサルやイノシシ、シカ等から大切な農作物を守るために電気柵等の購入資材費用の一部補助を実施しています。申請は自治会長さんから農家組合長さんを通じて申請することになります。

サル対策の手順

- 1 基本的な情報を知ろう
畑を見直し、集落内のサルのエサを知る
- 2 守れる畑・集落を作ろう
エサをなくすなどソフト面の改善と、サルの逃げ場をなくすなどハード面の改善
- 3 柵や囲いを作ってみよう
サルに苦い経験をさせ、エサ場としての魅力を失わせる

サルにとって魅力的なエサ場

～集落をサルのエサ場にしない～

集落全体でエサがなくなれば、サルはやって来ません。

しかし、気づかないところにサルのエサがたくさんあります。人が食べない物でもサルにとってはご馳走になります。

まずは集落を点検し、サルのエサ場としての魅力を下げよう見直しをするのが防除の第一歩です。

《例えば...》

- ・だれも食べない柿などの果樹
- ・稲刈り跡の株から伸びて出穂した米
- ・放棄された竹やぶのタケノコ
- ・ゴミ捨て場の生ごみ など



電気柵・ネットハウスで侵入を防ぐ

サルによる被害を防ぐには、電気柵や天井までついた囲いが有効です。サルが登ったり、わずかな隙間でも侵入したりするため、設置方法や柵の選定、維持管理が重要です。

《あきらめない》

不完全と思われる防除柵でも、やらないよりはずっとましです。むしろ畑で味を覚えさせ、サルが居着いてしまうほうがより心配です。集落の1人でも多くの方が、防除柵を設置するのが重要です。たとえ数匹のサルに防除柵が突破されても、あきらめることはありません。群れの特定の数匹しかエサにありつけないようなやっかいなエサ場と認識すれば、サルはいずれ来なくなることも多いからです。また柵内に侵入したところを人間に見つけて脅かされるなど、怖い目にあうことの多い集落をサルは避けるようになります。

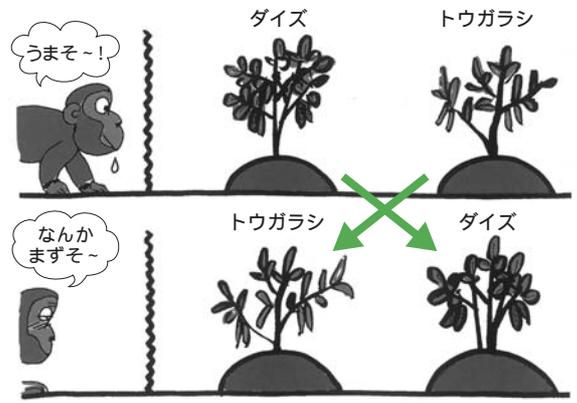


参考資料：「みんなで防ごう鳥獣害」(社)農山漁村文化協会 提携事業センター

小さな嫌がらせを積み重ねる

～サルの苦手な畑をつくる～

図々しいようでも、サルは人前に身をさらすのは苦手です。荒れた畑の草や山林の下草刈りなどをして見通しをよくすることで畑へ来にくくなります。いつも被害を受けるところにはコンニャク、トウガラシ、シソなど、サルが好まない作物を植えるなどの工夫もします。こうした小さな嫌がらせの積み重ねをするだけで、サルは集落に来にくくなります。



植える畝の位置を変えるだけで、エサ場としての価値はものすごく違います。

みんながサルの敵になろう

サルに対し、畑に来ても作物が食べられないことを行動で教えるようにします。投石・爆竹・ロケット花火・追い払いなど何でもできることをしてください。何もしないのが最もいけません。サルが集落を歩き過ぎるまで畑に立って見張ることも有効です。犬に見張らせることもよい方法です。収穫せずにほったらかしにした作物もサルにとってはご馳走です。お墓のお供えもサルの格好のエサです。きちんと処分しましょう。

問 藤原庁舎 農業振興課 T 46-6060 F 46-6319

下水道情報

下水道を使用しているみなさんへ

最近、中継ポンプの異常が多く、非常に困っています。その原因の多くは、タオル・雑巾・下着など異物の流入ですが、下水道を使用する方が注意すれば異常は発生しません。これらの異物が流入すると宅内排水管、下水道本管の閉塞や中継ポンプの故障につながり、下水道が使用できなくなるなど、その負担は使用している方にかかってしまいます。

下水道施設の機能を十分に発揮させるため、右記の5つの点を守ってください。

5つの注意

- 1 調理後の油類は十分に紙で拭き取って「もえるごみ」で処理してください。
- 2 野菜くずなどのごみは流さないでください。
- 3 水洗便所では、トイレトーパー以外の紙は流さないでください。(例：タオル類など・下着・ティッシュペーパー・生理用品など)
- 4 有機リン洗剤は使用しないでください。
- 5 公共ます・宅内ますの蓋を車で踏まないでください。(破損により雨水や砂が入ります)

問 北勢庁舎 下水道課 T 72-3515 F 72-2260